



昭和56年(1981年)5月以前に建築された旧耐震基準の住宅についてはそのほとんどが現行の省エネルギー基準を満たさないものと想定されます。

ヒートショックとは大きな室温の変化によって血圧が急激に上下し、心臓や血管の疾患が起こることです。



入浴中の事故は交通事故よりも多いと言われています。また、熱中症死亡者数も屋外より屋内のほうが多くなっています。その他、室温が居住者の健康に影響を及ぼすことが国の調査で報告されています。



耐震改修のために工事する壁に断熱材を入れるなど、同時に行うと工事に無駄がありません。

省エネリフォームと耐震改修を一緒に行うことで快適で安全な住まいを手に入れませんか。

住宅の耐震改修に補助金があります!

<p>耐震診断 木造住宅の場合 自己負担 3千円 以内</p>	<p>耐震設計 20.5万円 補助金</p>	<p>耐震改修 100万円 補助金</p>
---	--	---

対象住宅
昭和56年(1981年)5月31日以前に建築された住宅
(戸建て、長屋及び共同住宅など)

申込先 住宅のある市町村
申請者 対象住宅の所有者

■ お問い合わせ
高知県土木部住宅課 **TEL 088-823-9856**
(受付時間 午前8時30分~午後5時15分 休日を除く月~金)

高知県 耐震 検索



省エネルギーフォームの種類

断熱リフォーム

創エネ設備の導入

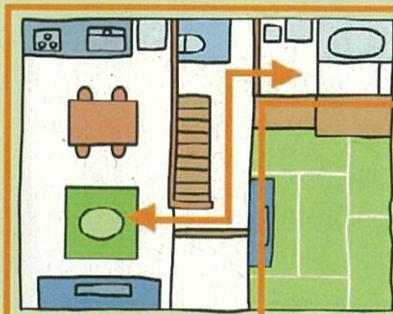
高効率機器の導入

断熱材

耐震改修と併せて断熱リフォームするなら耐力壁を入れる壁に断熱材を同時施工すれば無駄がありません。

窓断熱

断熱リフォームを検討するなら、まずは効果の高い窓から。



長い時間過ごす居間と水回りだけの断熱リフォームでも効果は感じられます。

太陽光発電

クリーンな太陽光によって日中発電した電力を使用することができます。余った分は蓄電池に蓄えたり売電したりできます。

高効率機器

照明のLED化や省エネタイプのエアコンへの取り換えを合わせて行えば光熱費を抑えることができます。

浴室断熱

断熱タイプのユニットバスに交換すれば暖かい浴室になります。

← 冷房使用時、外から熱が入る割合の例
→ 暖房使用時、外に熱が逃げる割合の例

省エネルギーフォームで



断熱性能が向上すると健康づくりにつながる

- ヒートショックや熱中症の予防になります。
- 血圧を下げる効果
室温が低いほど血圧が高くなります。断熱改修後、血圧が改善されました。
- 足元が温かい住宅では病気が少ない
床付近の室温が15度以上の住宅に住む人は15度未満の住宅に住む人に比べて、高血圧・糖尿病で通院している人が少ない。

出典：国土交通省「断熱改修等による居住者の健康への影響調査」

断熱レベルと年間冷暖房費の比較



光熱費が下がる

省エネルギーフォームは、コスト面でもメリットがあります。家の断熱性能の違いによって、年間の冷暖房費は3倍近く違います。

出典：国土交通省「低炭素社会に向けた住まいと住まい方推進会議」



地球にやさしい



断熱リフォームや太陽光発電などの創エネ設備の導入、高効率機器の導入によるエネルギー消費の削減は環境への負荷を少なくする大事な取り組みの一つとなっています。

